

久居農林高等学校の学科の改編について

1 久居農林高校の概要

- ・明治 37 年開校以来、地域に根差した専門高校として、「農業」「家庭」の専門性を活かし、地域社会を担う将来のスペシャリストの育成に取り組んでいます。
- ・現在、農業学科（4 学科 4 学級）と家庭学科（1 学科 2 学級）を併設し、「生物・環境・生活」の情報発信の拠点として地域に貢献しています。

2 改編の趣旨

- ・本県においては、農林業の担い手不足の解消が喫緊の課題となっており、その課題を解決する人材を育成することが急務となっています。
 - ・そのために、AI・ロボット等の最先端の技術を活用した学びや、地域課題の解決に取り組む探究的な学びをとおして、子どもたちに地域社会の持続可能な発展につながる多角的な視野と創造力を育むことが必要です。
 - ・農業学科の従来細分化されたコース制を見直し、令和 9 年度より「農業科学科」「園芸科学科」「環境デザイン科」の 3 学科に改編し、興味・関心に応じて学科を構成する分野を包括的・横断的に学習できるカリキュラムへと変更します。
- ※家庭学科（1 学科 2 学級）は継続します。

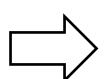
3 改編の概要

(1) 改編年度 令和 9 年度入学生より

(2) 学科改編の要点

【現状】

農業学科 4 学科



【学科改編後】

農業学科 3 学科

【現状】		【学科改編後】	
学科	コース	学科	学習内容
農業学科	生物生産科 (1 学級定員 40 名)	農業科学科 (1 学級定員 40 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作や鶏や羊などの動物飼育 ・味噌、焼菓子などの農産加工 ・生産・加工・販売を一貫して行う 6 次産業化
	生物資源科 (1 学級定員 40 名)		
	環境情報科 (1 学級定員 40 名)	園芸科学科 (1 学級定員 40 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・いちご、梨、ぶどうなどの野菜や果樹の栽培 ・デジタル技術を活用したスマート農業 ・野菜や果樹、草花の栽培や活用をとおした地域交流
	環境土木科 (1 学級定員 40 名)		
	環境保全	環境デザイン科 (1 学級定員 40 名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンを活用したスマート林業や測量 ・イスやすのこなどの木材加工 ・自然と調和した庭づくり
	ガーデニング (草花)		
	土木・機械		

(3) 「課題研究」の高度化と魅力発信 (2、3 年生)

学びの集大成である「課題研究」において県内大学、県内企業、県・津市、地元の生産・流通業者などと連携し、より高度な探究活動に取り組み、その学びの成果を地域に還元します。

4 学科の目標や特色ある学習活動など

【農業科学科】

<目標>

農作物や畜産、農産加工に関する専門的な知識・技術を身につけ、生産・加工・販売を一体的にとらえ、地域の農と食の関連産業を担う人材を育成します。

<特色ある学習>

- ・食の安全・環境保全に配慮した農業生産工程管理（GAP）を取り入れた稲作や、家畜の生態にもとづいた適切な飼育管理
- ・育てた農産物の加工、流通・販売までを一体的に行う6次産業化の実践的な学習

<進路> 農業法人、食品関連企業、農業職公務員、農業系四年制大学・専門学校など

【園芸科学科】

<目標>

野菜・果樹・草花の栽培技術やその活用方法に関する専門的な知識・技術を身につけ、高品質な園芸製品の生産や、植物を通じた豊かな社会づくりに貢献できる人材を育成します。

<特色ある学習>

- ・センサーで温度や水を自動管理する温室を活用した高品質な野菜と草花の栽培
- ・野菜や果樹、草花の栽培や活用をとおした地域の園児・小学生との交流活動

<進路> 農業法人、花き流通・販売企業、農業職公務員、農業系四年制大学・専門学校など

【環境デザイン科】

<目標>

林業・農業土木・造園に関する専門的な知識・技術を身につけ、豊かな自然環境の保全と災害に強く持続可能な地域社会の構築に貢献できる人材を育成します。

<特色ある学習>

- ・ドローンを活用した林業や測量、企業や行政等の外部と連携した地域の防災・減災につながる森林保全の学習
- ・生態系に配慮し、自然と調和した造園・庭園設計

<進路> 林業・土木・造園関連企業、林業・土木職公務員、農業系四年制大学・専門学校など